

新潟歴史資料救済ネットワークの取り組み

新潟大学・原 直史

1. いくつかの前提

- (1) 阪神淡路大震災以来の史料ネットの活動
- (2) ボランティア団体としての「越佐歴史資料調査会」
- (3) 新潟県文書館が定着させた「現地主義」
- (4) 7.13 水害の経験

2. 当初の活動と課題

- (1) ネットワークの形態と事務局の所在
新潟の独自性 大学に事務局があることの意味
- (2) 活動の範囲
自治体等の活動とどうリンクしていくか 「どこまでやるか」
- (3) 財政的裏付け
募金をどう考えるか ボランティアの範囲
- (4) 情報交換と意志決定
Web やメールの利点と欠点

3. 活動のスタイル

- (1) 救済活動と宣伝活動
- (2) 広範な参加者
募金等は全国から
救済活動も近県を含めて多く参加
- (2) 活動のサイクル
救済の申し出→調整
参加者の募集とボランティア保険
活動当時の役割分担 時間配分
活動報告 後始末

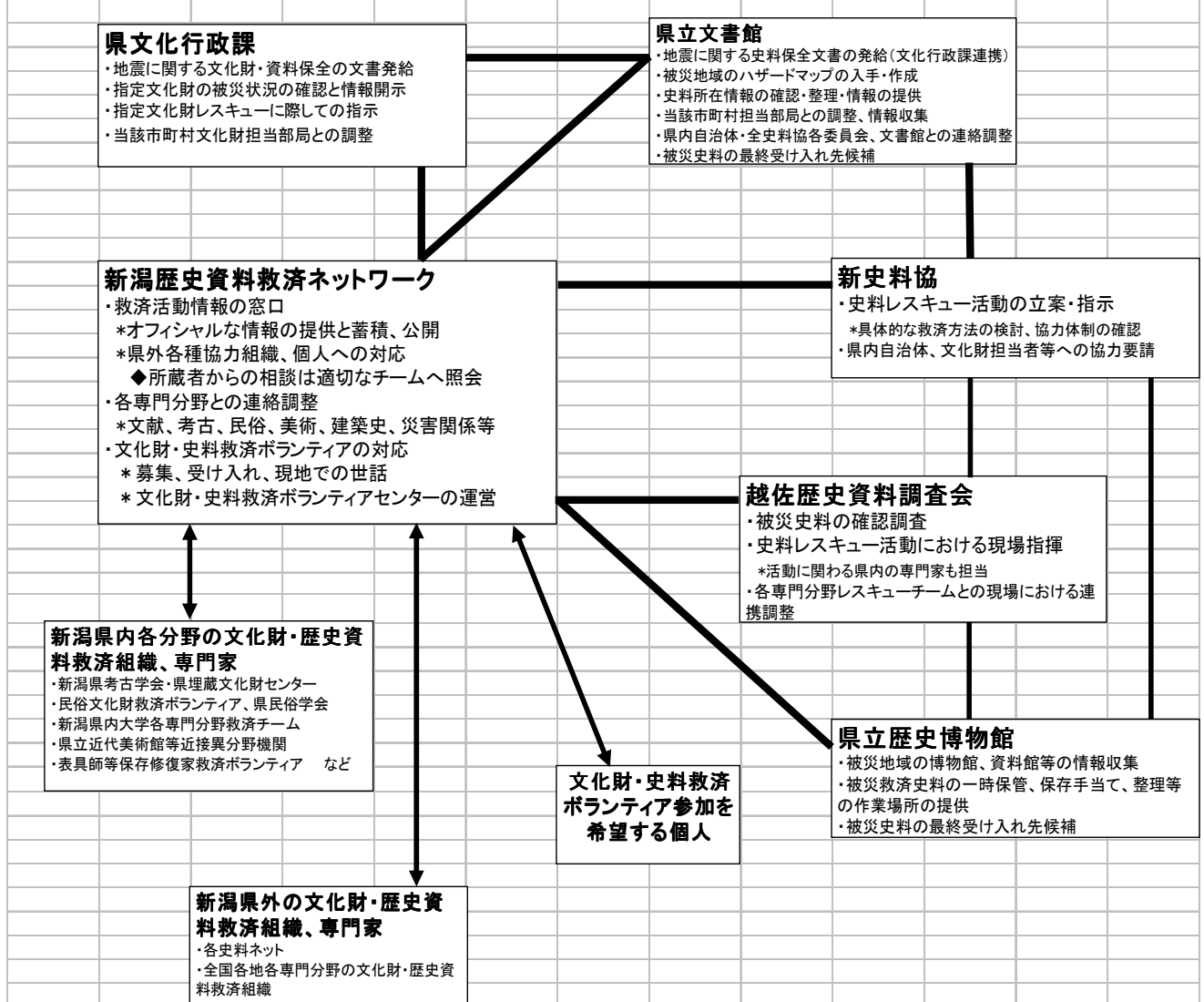
4. 現状での課題

- (1) 受け身の活動からの脱却
被災自治体との連携と確認調査
- (2) 中長期的展望
場所の確保 「何のためにやるのか」
- (3) 宣伝活動の方向
- (4) 総合的なネットワークへ

新潟歴史資料救済ネットワーク活動日誌

- 10/23 新潟県中越地震 10/25 頃より、越佐歴史資料調査会メンバーの間で歴史資料救済活動組織の立ち上げについて相談
- 10/31 新潟史学会の場で関係者の協議（越佐世話人＋文書館 計7人）、大学に事務局を置くことを要請
- 11/2 大学内で事務局体制の協議、今後の対応の協議（越佐世話人＋文書館 計4人）、ML の立ち上げ 県より文書で
- 11/3 小千谷確認調査（5名）
- 11/4 大学内で関連教員の協議
- 11/5 発足案内文の発表 Web サイト立ち上げ
- 11/8 被災者向け・ボランティア向けの呼びかけ文の発表
- 11/9 産経新聞に記事（ネットを紹介する初めての記事か）
- 11/11 小千谷「土蔵調査」（事務局＋文書館 計4名） NHK・新潟日報・毎日新聞で報道
- 11/12 募金用口座開設
- 11/20 小千谷市 A 家救済活動（運び出し） 25 名
- 11/21 ネット第1回会合（新潟大学）
- 11/22 京都造形芸術大歴史遺産研究センターより現物援助の申し出
- 11/24 ボランティア保険加入手続き開始
- 11/25 「史料地震学と地震危険度評価に関する日伊ワークショップ」にて紹介と呼び掛け（事務局・矢田）
- 11/28 全史料協セミナー「宮城地震と資料保存」にて報告（事務局・矢田）
- 11/29 小千谷市 A 家救済活動（運び出し） 39 名
- 12/2 地震・災害等調査等活動に関する学内交流会（新潟大）にて報告（事務局・矢田）
- 12/5 魚沼市（旧守門）確認調査 越佐中心3名
- 12/12 小千谷市 A 家救済活動（目録作成） 36 名 第2回会合
- 12/19 小千谷市確認調査 22 名
- 12/23 山古志村民俗資料館救済活動 49 名で企画したが積雪のため延期
- 1/8 小千谷市 A 家救済活動（目録作成） 36 名
- 1/16 「文化財保存修復学会防災セミナー」（長岡市）にて報告（山本）
- 1/22 文化財保存修復学会シンポジウム（尼崎市）にて報告（事務局・矢田）
- 1/29 新潟大「新潟県連続災害の検証と復興への視点」にて報告（事務局・矢田）
- 1/30 小千谷市 A 家救済活動（目録作成）
- 2/6 山古志村確認調査

新潟史料ネット(仮称)立ち上げに伴う県内組織と役割分担図(案)



新潟歴史資料救済ネットワークの発足について

新潟県中越地震で被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。また、地震直後より、全国の大勢の方々よりご心配や励ましの声をいただき、あわせて心より感謝申し上げます。

被災地では、なお余震が続く中、多くの方が不自由な生活を続けておられています。一方で、復興に向けた力強い動きも始まっています。

わたしたち新潟県内で地域の歴史を学び、これを地域に行かしてゆく活動にたずさわってきた者は、今次の地震で、被災地の方々の生活が大きな打撃をこうむっただけでなく、地域の財産である多くの歴史資料もまた大きな被害を受けたことに、心を痛めてきました。それは自治体等に指定された文化財だけでなく、各家庭で受け継いできた、古文書・書籍・書画・写真・アルバム、生活や生産の道具類など、歴史の歩みを伝える多くのものに及びます。こうした歴史資料は、今後家や地域が復興していく上でも、心のよりどころとなるべきものであらうと考えます。

そこでこのたび、新潟県内の文書館・博物館等の職員、大学・高等学校の教員などが集まり、「新潟歴史資料救済ネットワーク」を発足させることになりました。すでに新潟県文化行政課・県立文書館から 11/2 付けで「被災「文書等」の取扱いについて（お願い）」という文書が各市町村に向けて出され、被災された市町村の文化財担当職員をはじめとして、懸命の努力が続けられているところです。しかしながら被害の規模は甚大であり、個々の対応では困難に直面することが予想されます。当ネットワークでは、広く歴史資料の被災状況を集約し、新潟県文化行政課・新潟県文書館・新潟県立歴史博物館など県内の関係各機関や、阪神淡路大震災以来、精力的に歴史資料の救出に携わってこられた全国の仲間とも連携しながら、歴史資料の救済・保全の活動を進めていきたい、と考えています。

現在もっとも急務なのは生活の復興、そして経済活動の復興です。少なくなったとはいえ、余震もまだ続いています。そこで当面私たちは、歴史資料の被災状況の確認に力を入れていきます。さらに被災地の生活が落ち着いた段階で、必要なボランティアなどを募りながら、本格的な歴史資料救済・保全の活動に入りたいと考えています。

よろしくご理解とご支援をお願い申し上げる次第です。

2004 年 11 月 5 日

新潟歴史資料救済ネットワーク

事務局長 矢田俊文（新潟大学人文学部教授 日本中世史）

事務局員 池田哲夫（新潟大学人文学部助教授 民俗学）

事務局員 原 直史（新潟大学人文学部助教授 日本近世史）

お問い合わせ先

新潟大学人文学部矢田俊文研究室

950-2181 新潟市五十嵐 2 の町 8 0 5 0

電話・FAX 0 2 5 - 2 6 2 - 6 5 4 2

携帯電話 0 9 0 - 8 0 0 4 - 1 1 1 4

E メール yata@human.niigata-u.ac.jp

Web ページ <http://hysed.human.niigata-u.ac.jp/rescue/>

被災地区の皆さんへ！－歴史資料についてのお願い－

新潟県中越地震で被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。また、不自由な生活が続くなか、復興に向けて力強く立ちあがっておられることに、心から敬意を表します。わたしたち新潟歴史資料救済ネットワークは、地震で被災した歴史資料を守るため、博物館・文書館の職員や大学・高校の教員などで結成されたボランティアのグループです

歴史資料を処分しないでください！

家の片づけなどで「何か古いものがあるが…」とお困りではありませんか？ 家や地域の記録としての書類、日記、写真やアルバム、古い書籍や軸物、生産や生活の道具…これらはみな、家や地域の歴史をつたえる貴重な資料です。これからの復興にあたって、家や地域の歴史を知るたよりとなる歴史資料は、心の支えとなっていくのではないのでしょうか。

歴史資料って？

国や県、市町村が指定した文化財だけが歴史資料ではありません。お宅や地域にこのようなものはありませんか？

- 和紙に墨で書いた帳面や書類、和綴じの書籍、掛け軸などの書や絵画、襖や屏風
- 明治・大正・昭和の古い書籍・雑誌・新聞・写真・アルバム・絵・日記やノート
- 古い食器・着物・農具など生活や生産の道具
- 石碑・石仏などの石造物、古いお堂やほくらなどの建造物

歴史資料は修復できます！

家や家具の下敷きになったり、水をかぶってしまったとしても、こうした歴史資料は修復できる可能性があります。必要ならば資料の一時避難先や整理・搬出の人手もお世話できます。「これはダメだ」と捨ててしまう前に、是非お住まいの市町村の教育委員会文化財担当係か、または下記のお問い合わせ先まで直接ご相談ください。

急いで売却しないでください！

古物商などが買い取りを持ちかけてくることがありますが、売ってしまう前によく考えてください。いったん手放した歴史資料は、二度と皆さんの家や地域の歴史を語ってくれません。あわてていたため不当に安く売ってしまい後で悔やんだという例も、これまでの大きな災害では報告されています。急いで売却せずに、是非下記にご相談ください。

お問い合わせ・ご相談は

新潟歴史資料ネットワーク（新潟大学人文学部矢田研究室気付）

TEL/FAX 025-262-6542 / 携帯090-8004-1114

または

新潟県立文書館

TEL 025-284-6011 / FAX 025-284-8737

家屋片づけボランティアに参加されている皆さんへ

—歴史資料の保全についてのお願い—

新潟中越地震の災害に対し、ボランティアとして参加されている皆さんの活動に、心より敬意を表します。私たちは県内の博物館・文書館の職員や高校・大学の教員などが中心となって、被災地の歴史資料を守るために結成されたグループです。私たちから皆さんへのお願いがあります。

歴史資料が家にあります！

家や地域の歴史を語る資料は博物館や史料館だけにあるわけではありません。地域の各家庭でも、多くの歴史資料を所蔵している場合があります。

どんなものが歴史資料なのか？

- 和紙に墨で書いた帳面や書類、和綴じの書籍、掛け軸などの書や絵画、襖や屏風
- 明治・大正・昭和の古い書籍・雑誌・新聞・写真・アルバム・絵・日記やノート
- 古い食器・着物・農具など生活や生産の道具

どうすればいいのか？

- 上のようなものがあったら廃棄せずに、雨などがかからないところにまとめておいてください。（かなり汚れたり壊れたりしていても、復元できる可能性があります）
- その家の方に「大事なものだと思いますので、今後のことは市町村の教育委員会に相談すると良いですよ」と伝えてください。
- 余裕があれば、下記にご相談ください。

お問い合わせ先

新潟歴史資料救済ネットワーク（新潟大学人文学部矢田研究室気付）

TEL/FAX 025-262-6542 / 携帯090-8004-1114

または

新潟県立文書館

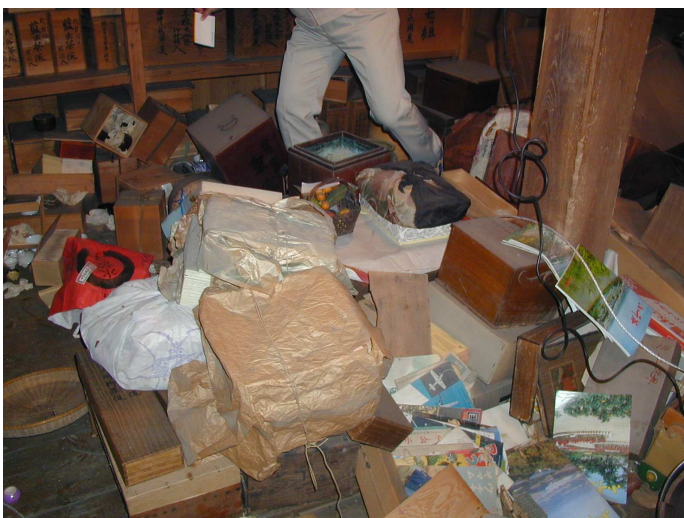
TEL 025-284-6011 / FAX 025-284-8737



土蔵の崩壊例



家の歴史が凝縮されている
和紙に巻かれた陶磁器は意外
と無事



多様なモノが散らばる
座標を決めて記録をとる



土蔵からの搬出は埃との戦いでもある



トラック一杯に積み込むわけには行かない

トラックが入れない場所では普通車によるリレーも必要



適切な休息をとることも重要

歴史資料被災状況調査カード

No. _____

市町村名

調査日 平成 年 月 日 ()

所蔵者
氏 名

* 所蔵者・収蔵施設単位に作成

▼住所 〒 _____	
▼電話 () _____	
被災の概要	▼全体の被害状況
	▼史料の被災状況

▼収蔵環境（建物の何階、湿気・射光の有無、）今後の史料管理について	
史料所蔵者・管理者よりの聞取り	_____

調査者所見	_____

調査者 _____	

新潟歴史資料救済ネットワーク 救済史料目録カード

所蔵者名 _____

原蔵位置記号 _____

整理番号 _____

分類 陶磁器（皿・鉢・茶碗・杯・その他 []） 漆器・木製品（膳・椀・その他 []）
書籍・文書（刊本・簿冊・一紙文書・書簡・その他 []）
書画（屏風・軸・額・その他 []） 布製品（衣類・その他 []）
金属製品（皿・置物・ []） その他（ []）

名称 _____

員数 _____

法量 _____

容器 木箱 紙箱 その他 _____

容器法量 _____

墨書・銘など _____

年代 _____

作成者 _____

写真・スケッチ



備考 _____

整理日 _____

担当者 _____

1. クリーニング

まとまり（運搬用段ボール箱等）毎に運び出し、埃等をはらう

2. 整理番号付与

原蔵位置記号（A・B など）毎に梱包容器から取り出し、順次整理番号を付す。

容器に入っている物、くくられている物等のかたまりを1件とし、ひとつの番号を付す。

それ以上は崩さない。

3. 写真撮影

原蔵位置記号と整理番号を記した付箋紙を貼ったうえで、全景の写真撮影。

1 件につき何カット取るかは作業効率との関係で決める。

4. 目録カード記入

付箋紙が貼られたままで目録カード記入者に渡される。これに従い最低限以下の欄を記入する。

- ・原蔵位置記号 ・整理番号
- ・分類（○をつける）
- ・名称（上記分類のみで事足りる場合は省略可）
- ・員数
- ・容器（ある場合）
- ・墨書（判読困難で時間がかかりそうな場合は「容器に墨書あり」等としたのみでも可）
- ・年代（墨書や表紙などで明瞭に判明する場合のみに限る）
- ・担当者

その他の部分は今回は記載しない。法量の計測はしない。スケッチも行わない。所蔵者名・整理日は後で一括して事務局で記載。

5. 収納整理

県博担当者との協議のうえ、効率的な収納を考える。

付箋紙を貼ったままにするかどうかもここで判断。

事務局で必要な物

目録カード

付箋紙（大量）

筆記用具（整理にはボールペン等不可。鉛筆 or シャープペンシル）

デジカメ用メモリー予備（1000 カット以上撮ることが考えられる）

長岡市内なので不足すれば大型家電店などに買いに行けるが高価

ノートパソコン持参してメモリーが一杯になったら転送してしまえとよいかもしれない。（1000 枚撮るとしても 500MB 程度のハードディスク空き容量があれば足りる）